

**コロナ第二波とロシア**

西山 美久

ロシアでは9月中旬頃からコロナの新規感染者数が徐々に増えており、感染ペースは5月のピーク時を上回っている。10月中旬にはロシアの累計感染者数は世界第4位を記録し、欧州同様に第二波が拡大している。感染者が急増するフランスとドイツはロックダウン（都市封鎖）の再導入を発表したが、プーチン大統領は経済への影響を考慮してロシア全土での再導入は検討していないようである。

第二波で感染者が徐々に増える中、モスクワ市内ではスーパーやショッピングモールの他、市民の主要な移動手段である地下鉄の各駅でもマスクや手袋のチェックが行われており、それも5月のピーク時に比べてかなり厳しくなっている印象がある。地下鉄のホームには複数の警察官も配置されている。また、コロナ禍でもアイスホッケーやバスケットといったスポーツの試合は行われているが、「3密」を防ぐために入場制限が実施され人影はまばらである。それでも熱狂的な地元ファンが会場に駆けつけ、試合を盛り上げているようである。

11月8日にはロシア全土で2万1798人、モスクワ市では過去最多となる6897人の新規感染者が確認された。これを受けソビヤニン市長は、11月13日から2021年1月15日までの2ヶ月間、市内各大学（市立大学等）での授業をオンラインに切り替えるよう指示を出した他、レストランやカフェ、さらにはバーやナイトクラブ等の営業を23時から翌朝6時まで禁止に

し、違反者には罰金も課す方針である。この判断に続き、モスクワ大学やモスクワ国際関係大学（ロシア外務省付属）でも独自の決定がなされ、全ての授業がオンラインで実施されることになった他、未だ収束の兆しが見えないことから当該措置は無期限とされた。

また、コロナ対策として独自の取組みを導入する飲食店もある。各種報道によると、例えば市内のマクドナルドや一部のカフェでは、来店前に自身の携帯電話番号を特別サイトに登録して初めて入店できるようにしており、感染者が店内にいたことが後日、判明すると、コロナウイルス検査を促すショートメッセージが携帯に届く仕組みになっているという。

さて、毎年モスクワでは年末年始の休暇が近くなると、主要な広場には大きなツリーが置かれ、市内は色鮮やかなイルミネーションで飾られる。赤の広場やトヴェルスカヤ通り等では様々なイベントが開催される他、クリスマスマーケットもあり大勢の人で賑わう。このマーケットではマトリョーシカやグジェリ等の民芸品を扱う屋台以外にも、シャシュリクやホットワイン等を扱う屋台が軒を連ねている。残念だが、今年はコロナの影響でそれらが中止になると聞いており、外をブラブラすることもなさそうだ。新型コロナウイルスの収束を願ってやまない。  
(北海道大学)